

神奈川県立平塚ろう学校 令和7年度第1回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第1回学校運営協議会
開催期日	令和7年5月 29 日(木)
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校 会議室
出席者	神奈川県立平塚ろう学校 学校運営協議会委員 10名
次回開催予定日	令和7年 10月頃
問合せ先	平塚ろう学校 副校長 木川 電話 0463-32-0913 FAX 0463-32-1646 電子メール hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
会議資料	次第 資料1 学校運営協議会運営計画 資料2 神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱 資料3 平塚ろう学校グランドデザイン 資料4 学校教育計画(令和6年度～令和9年度) 資料5 令和7年度学校目標 資料6 平塚ろう学校不祥事ゼロプログラム 資料7 令和7年度年間行事予定
議題	1 学校運営協議会運営計画について 2 令和7年度学校経営及び学校目標について 3 令和7年度不祥事ゼロプログラムについて
審議(会議)経過	1 学校運営協議会運営計画について 【説明】 実施体制、委員。年間計画の確認。できるだけ都合の調整をお願いします。都合が悪ければ、後ほど副校長へ連絡してください。集まりが悪いようでしたら、再調整する。実施体制は、去年と変わらず。設置部会は、学校評価部会、切れ目ない支援部会の2つ。 2 令和7年度学校経営及び学校目標について 【説明】 校長より説明。 グランドデザインについて 基本的に昨年度と同様。先ほど、PTA会長が言われたが、学校の大事なことは学校に通っている子どもたちが安心、安全、毎日学校に行きたいなと思ってもらえること。そのためグランドデザインがある。子どもた

ちのために、やるべきこと、努力することが書いてある。
昨年度から100周年事業、デフリンピック、言語獲得言語習得対策委員会の3点を追記している。

学校教育計画について

学校のミッションが記載されている。令和6年～令和9年のミッションで変更はない。
5つの柱をもとに、具体的な内容が書いてある。

【質疑応答】

Q(委員)障害福祉課(平塚)に来るろう者、「通知に書いてある内容が分からない、手話で教えてほしい。」と言う人がいる。言語獲得言語習得対策委員会の取組を教えてほしい。

→A(学校より) 言葉の獲得、習得に向けて、有効な手立てや指導を総合的に組み立てていく。我々、一緒に働いている教員から自然に湧き上がってきたもの。ろう学校としての課題として、はじまったばかりで内容はこれから。校内の委員会で、構成員は有志と自立活動班、言語獲得言語習得対策委員会、各学部からは必ず1名で構成している。月に一回。言語獲得:乳幼児期。言語習得:プリントを文字で理解できるか?という力をどのようにつけて行ったらいいか?継続して取り組んでいかなければならぬ課題である。

(委員長)

資料5の学校目標。これが大事なもので、この目標に基づいて、学校は頑張りますというもの。

【1 教育課程・学習指導】1年間の目標に、カリキュラムマネジメントの推進とある。つまり、教員がどのように授業をしていくか?ということ。

指導と評価の一体化。という文言がある。これはすごく大事なこと。授業でやったことがどうしてできたのか?できなかったのか?指導の仕方はどうだったのか?教員は子どもの指導を真剣にがんばりますよ。ということがここに書かれている。平塚ろう学校は、子どもへの指導を大事にしよう正在していることが分かる。

【3進路指導・支援】進路指導は出口でするだけではない。具体的な方策の中にある「発達段階において」というのは、幼稚部から進路の取り組みをするということ。今日はサンシティの方も来ている。就労支援と生活の支援もしている。幼稚部からの進路指導が必要。就職できればいいということ

とではない。

【4 地域等との協働】市町の教育委員会と連携していく。センター的機能を發揮していく。地域の小中高で学んでいる子どもの指導を教育委員会と連携して行っている。

(委員) 平塚市に引っ越してきて、子どもたちが平塚市の学校に入った。難聴の子がクラスにいる。いろんな場面で特別なクラスに入ってやっている。どうしていいか先生もわからない。体育は特別にやっているようだ。いろんなことが分からない。共生社会の推進。障害児の支援学校の連携をしたい。

Q(委員)どのように市の教育委員会とつながっているのかな?

➡A(学校より)

総括教諭が聴覚障害について講話をする機会がある。センター的機能。(明日)学校に行って学習会をする。

分からぬといふのは仕方ない。こうするといいよね、ということを学校として連携していく。

数年前から保護者の意向のもと、居住地で学びたいという児童生徒の居住地交流を市教育委員会と協力して進めている。居住地交流(体験)、その他、困ったときの発信手段も伝えている。本校からサポートをすることができる。

新特担研は、新しく特別支援学級(難聴級)の担任になった先生の研修がある。6月に平塚ろう学校に来て研修する。悩んでいること、困っていること。支援連携グループが加わって。(県央教育事務所)県央以外のところも参加することもある。

その他 巡回相談もしている。

Q(委員)

大原小の運営委員もやっている。運営協議会のメンバーは、どういうことをやるのか、小学校での運営協議会の事例について研修を受けた。ろう学校のケースはちょっと違う。地域との関わりはどうすればいいのか?

➡A(学校より)

特別支援学校が地域に出ていくことは大事なこと。卒業すれば地域に出ていく。

学校運営協議会委員の方にお願いして横浜ゴムの防災訓練を見させていただいた。地域と一緒に防災訓練を行ったり、地域の方に聴覚障害児がいることを知ってもらったりすることも大事だと考えている。

	<p>例えば、ろう学校にロータリークラブが見学に来てくれたことがある。</p> <p>(委員) 幼稚部の子どもの母と一緒にいることが多い。小学部以上の保護者が手話を使う機会がなく、手話の技術が落ちていく。小学部では、子どもの手話が上達していく。デファミリーが減っている。ろうの子どもも減っている現状。手話学習会を開きたいと考えている。</p> <p>(委員) 昨年、PTAで手話学習会やお父さん向けの学習会を行っていた。ぜひ今年もお願いします。</p>
	<p>Q(委員)</p> <p>創立100周年記念事業やデフリンピックなどにおいて外からできることはあるか?</p>
	<p>A(学校より)</p> <p>デフリンピックではバレーの試合の応援に行きたい。</p> <p>100周年記念事業もどのような規模で行っていくか。子どもたちの記憶に残るような事業になればいいかなと思っている。外向けのセレモニーというより、子どもたちの記憶に残るものしたい。</p>
	<p>Q(委員)</p> <p>デフリンピックは日本で初めて行われるのか。その割には静かな感じがするのでは。</p>
	<p>A(委員)</p> <p>平塚は盛り上がってない。卒業生が日本代表でいるので盛り上げてほしい。</p>
	<p>A(学校より)</p> <p>関東のろう学校の校長会での話題、東京のろう学校には依頼が来ている。</p> <p>神奈川県のスポーツ局などと連携して、デファスリートを呼んでの活動を計画したりしている。</p>
	<p>(委員)</p> <p>昨年 デフサップ大会を開催。ろうの選手が33人あつまつた。今年も10月11日に開催予定。最初、デフリンピックに合わせて11月に開催しようと思っていたが、10月になった。今年は第2回、平塚漁港で行う予定。見ている方も楽しいと思う。相模川(馬入)で練習している。</p>
	<p>3 令和7年度不祥事ゼロプログラムについて (説明)</p>

年間計画は昨年度と同様。
神奈川県としてもわいせつ事案の根絶を一番に入れている。
人権、心理的安全性の高い職場づくりをしていきたい。

4 その他、自由協議

(委員)

ろう学校のPTAの皆さん方が何を求めているか?を知りたい。地域に求めていること、これが困っていること。

(委員)

ろうの子どもにとっては、手話が大切な言語。先生も保護者も。学校には部活がある。部活の練習の時間が短い。聞こえない子どもも地域のクラブチームに入れるようになったらいいのにと思う。

(委員) 部活動を地域に移行する。やはり特別支援学校で学んでいる。地域でフィットしたことはできる。それぞれのスポーツのエキスパートはいるが、それぞれの特性に目を向けてデフサップは大きな取組だと思う。スポーツの持つ力。最近ではeスポーツもある。

(委員)

神奈中スイミングでは指導者がいないので、ろうのクラスはない。みんなの身近なところでスポーツクラブに聞いてもらうというのはどうでしょうか? テニスのスクールには話しかけている。企業の方の後押しが必要だと思う。

(委員)

余暇活動が限られている。家に帰ってタブレットやってるだけ。今がチャンスではないか。小中は地域に広がっていっている。

(委員)

今、キャッチボールすらできない。どこかのチームに入ってないと野球ができない。それに加えて、障害のある方はクラブチームにすらはいれない現状が分かった。もうちょっと運動できる場所の提供について地域ぐるみで進めいかないと、発展していかないのではないか。

最近、技術が発達して、自転車も電動アシスト。みんな力を使わないので生活できている。どうなのかな?とも思う。体力をつけ、運動できる場所があるとよい。

(委員)

横浜市ではキッズ(市の学童保育)でドッヂボール、バスケットボールなどを行っている。放課後等ディサービスは費用の問題、障害の程度によって制約が出てくる。学校が終わったら、いられる居場所があるとよい。

(委員) 品川区は学童に全員入れる。費用もほぼ無料。しかし、子どもが自由に遊べない公園が多い。

(委員)

この会では、何かすることはできないが、現状を知ることは大事。

5 事務連絡

・学校運営協議会の予定

第2回 令和7年10月30日(木)10:00～…変更予定

第3回 令和8月26日(木)10:00～

都合が悪い方が多ければ、変更します。副校长まで連絡を。

6 学校見学(ご希望の方)…今日は協議延長のため、実施せず。